

モットー

2024. 4. 17

「謙虚・誠実・実行をモットーに新任教頭として頑張ってきます」と送別会で話をした。離任式の日、プレゼントをいただいた。開けてみると、そこには素敵なおネクタイがあった。裏を見てみると、何やら文字が刺繍されてあった。それは、3つの言葉だった。「謙虚・誠実・実行」だった。送別会から離任式まで、わずか数日である。その間に用意していただいたわけである。涙が浮かんできた。4月1日から、頑張らなければと決意を新たにした。新任教頭初日は、もちろん、いただいたネクタイを締めていった。その後も、気合を入れる日には、このネクタイをするようにした。

このエピソードを、第2回職員会議で話した。我々は、小さな子どもを相手にしている、保護者の方も若い。だからこそ、謙虚かつ誠実にならなければならない。先生方を見ていると、実行は心配ない。テキパキと、それも前向きに動いている。

私の場合だが、張り切って3つのモットーを掲げてスタートした。ところが、わずか数か月で、これだけでは足りないことを思い知らされた。「寛容」である。これがないと、とてもとてもやっていけない。小さな子ども、若い保護者のことを考えると、幼稚園も同じであろう。そして、「感謝」である。新任教頭を何とか務めながら、自然と感謝の気持ちが湧いてきた。何もできない自分を「教頭先生」と呼んでくれるのである。ありがたかった。これは、何も分かっていない現在の自分を「園長先生」と呼んでもらえるのも同じである。感謝の気持ちが湧き上がってくる。

「あなたのモットーは何ですか」と聞かれれば、「謙虚・誠実・実行・寛容・感謝」と答える。この5つは、幼稚園の先生にとっても、大事な要素なのではなかろうか。

「自信」と「過信」についても先生方に話した。経験とともに自信をつけていくことはわるいことではない。ある程度の自信は必要であろう。だが、小学校でも中学校でも、先生の自信が過信になっていることがある。自信が過信になってしまうと、その人の成長は望めなくなる。自信をもちながらも、迷いながら前に進む先生の方が魅力的なのではなかろうか。その方が、子どもとともに成長できる先生になれる。

子どもも保護者も、そして同僚も、いろいろな角度から見る必要がある。一つの方向からしか見ない、見ようとしないのは危険である。そこから、先入観、固定観念、思い込みが生まれる。これらをいかに排除できるかである。人は、第一印象に影響されやすい。人も物事も、様々な角度から見てみる、考えてみる姿勢が重要である。

幼稚園の先生方を前にして、改めて自分のモットーについて考えることができた。職員会議で先生方に話したのだが、実は、自分自身に言い聞かせていたように思う。